

## どんな職業か

建築物の開口部に「窓」や「扉」などを取付ける作業を専門に行う。取付に際しては、開口部の出入り、高さなどを1ミリ単位で正確に計測し、曲りやゆがみのないように取付をする。また、開閉装置などの金物類を確実に取付けて、サッシの性能が十分発揮できるようにする。サッシの大きさや種類は様々で、施工法もそれぞれ異なる。

手順は予め取り付ける部分に引かれた「墨」（基準となる線）を見て取付位置を確認し、サッシ枠を仮に位置決めし、くさび等を使って取付位置を微調整の上、決定する。そしてコンクリート壁に埋め込まれた鉄筋とサッシ枠に装着の溶接用アンカー（鉄片）を電気溶接して固定した後、サッシ枠とコンクリート面の隙間にセメントと砂を水で練り合わせたモルタルを詰め込んでふさぐ。最後にガラスや金物などを取り付け、動きを調整する。

サッシ施工は、建築全般の中でも建築物の出来栄を左右する大きな要素である。仕事の内容も、肉体労働の他に、それぞれの現場に合わせた工法、全体の建築工程に合わせた施工計画、さらには安全対策の検討など、頭脳労働も伴う。

サッシ施工は数人でチームを組んで作業することが多く、規模の大きい現場では数チームが入って作業をすることになり、それを指揮する職長と各チーム長は、管理業務もこなす。管理者は、建設業者やサッシメーカー、関連職種との折衝や連携業務の管理、さらに安全管理や原価管理など、高度な管理業務も行う。

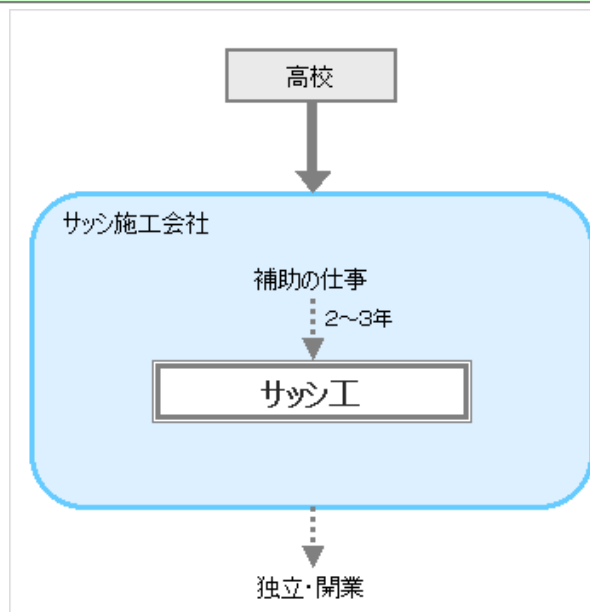
## 就くには

入職にあたって学歴、年齢、性別の制限はない。まずサッシ施工会社に被雇用者として入職し、業務に必要な技能や知識を習得する。6カ月程度で補助の仕事ができるようになり、2～3年で、普通の取付工事ができるようになる。10年以上のベテランになると、指名による仕事も増してくるが、サッシは製品も工法も改良が行われているので、それに対応した技能の向上が常に求められている。

サッシ施工は、ビル建築に携わる職種の中でも、個人技能が重視されている。また、国家検定である「サッシ施工技能士」の資格を取得すると業界での信用を広げることになり、将来計画にも大きな展望が開ける。

経験を積み、技能と管理技術を身につけ、現場をまわられるようになった人の中には、取付工事一括請負のかたちに移行していく人も多く、これがさらに進んで、独立した会社になることも多い。

基本的には肉体労働であり、足場上の作業などもあるため、体力が必要である。



## 労働条件の特徴

給料は日給月給のかたちで支払われるのが一般的であり、技術の熟練度による格差がある。

労働時間は午前8時から午後5時までの拘束9時間で、実働8時間、週休二日制であるが、現場の進行状況により流動的な面がある。サッシ工の仕事は、建築全体の工程に合わせて施工を進めるという事情から、前工程の狂いなどによって休暇になったり、逆に工程の遅れを取り戻すため、残業や徹夜、休日出勤などの時間外労働が生じることもある。

## 参考情報

**関連団体** 社団法人 日本サッシ協会 <http://www.jsma.or.jp> 社団法人 カーテンウォール・防火開口部協会  
財団法人 建設業振興基金 構造改善センター <http://www.kensetsu-kikin.or.jp>  
関東サッシ・ドア協同組合  
電話:03-5564-7016 FAX:

**関連資格** サッシ施工技能士 カーテンウォール施工技能士 建築施工管理技士